



ちゃいれっく上高田保育園

「科学」と「恐竜」

活動スケジュール

【4月～10月】日常の中の不思議に触れる機会を作る
日々の遊びの中に、科学の芽を取り入れた探究活動を行う

幼児クラス：水と石のサイエンス

「どうして石によって色が違うの?」「水に入れると色が変わった!」と、園庭の隅にある小さな石ひとつにも個性を発見。泥水のろ過実験や、水面に浮かぶもの・沈むものの仕分けを通して、物質の性質を五感で学ぶ

乳児クラス：光と影のワンダーランド

光の屈折を利用した「キラキラ遊び」を実施。透明な容器に入れた水が光を反射して壁に虹を作る様子を、目を輝かせて追いかける姿が見られた

【1月～3月】発見の深化：散歩先での「研究者」たち

●自発的な発見

お散歩先の公園や道端で、保育者が促さなくても自ら足を止め、石の質感や砂の色の違い、葉っぱの脈の走り方をじっくり観察していく姿が多くなった

●「違い」を知る

「こっちの葉っぱはギザギザしてるけど、こっちはツルツルだね」といった、微細な差異に気づく観察眼が養われていった。ただ見るだけでなく、自分なりに比較し、分類する姿があった

活動のために準備したものや環境の設定

- ・プロジェクターで恐竜や科学の不思議を映し出した
- ・恐竜教室ではジオラマを作り、わかりやすくイメージできるようにした
- ・保育室内に恐竜の塗り絵等、楽しく学べる環境作り

テーマの設定理由

すぐ近くに大きな公園があり、普段から自然や科学に興味がある子が多かった。また中野ゼロホールにプラネタリウムなどの施設もあることから、家庭でも科学に触れる機会があった。そのため、子どもたちだけでなく保護者も科学への興味関心の促進を目的に計画に至った。



活動の内容

・散歩の道中や公園などで「この石はいつできたのかな?」「石や砂の色が違うのはなんでだろう?」「恐竜とネズミはちがうの?」「今、いろんなキャラクターのモデルで恐竜が使われているけどなぜ恐竜はいなくなったの?」という問いが多く出てきたので、日々の活動の中から発せられる子どもたちの問いについて改めて考えるきっかけを作っていた。

・子どもたちが触って見るができるよう色の異なる石や恐竜の模型を複数用意。見るだけのものと触って良いものを分け、実際に触っても良い石、化石、恐竜の模型は、なぜそのような形をしているのか分かりやすいものにした。そしてそれを意図的に時代ごとに並べてどう石や恐竜が変化していったかを分かるようにした。

・子どもたちだけでなく、保護者にも分かるようにプロジェクターで写真を映し出して説明した。石、化石、恐竜に全く興味があっても分かりやすいように時代ごとにクイズ形式で映し出した。クイズ形式は簡単なものと、やや難しいものを用意することで保護者も一緒にクイズに参加しておもしろさも感じられるようにした。



活動中の様子

<12月20日（土） 恐竜教室の開催>

・保護者と子どもたちが一緒に参加できるような会だったこともあり、ご家庭で保護者と子どもが恐竜や科学、化石の話をしてもらえた。その後も家庭内での会話で科学などの会話が増えたとのこと。

・参加した保護者からのアンケートという形でさまざまな意見を伺った。その保護者からのアンケートで出た意見も回答し、園内に掲示した。

大人も子どももみんなで考えて…夢中！



みんなで楽しく恐竜や科学のことを学んだよ！

